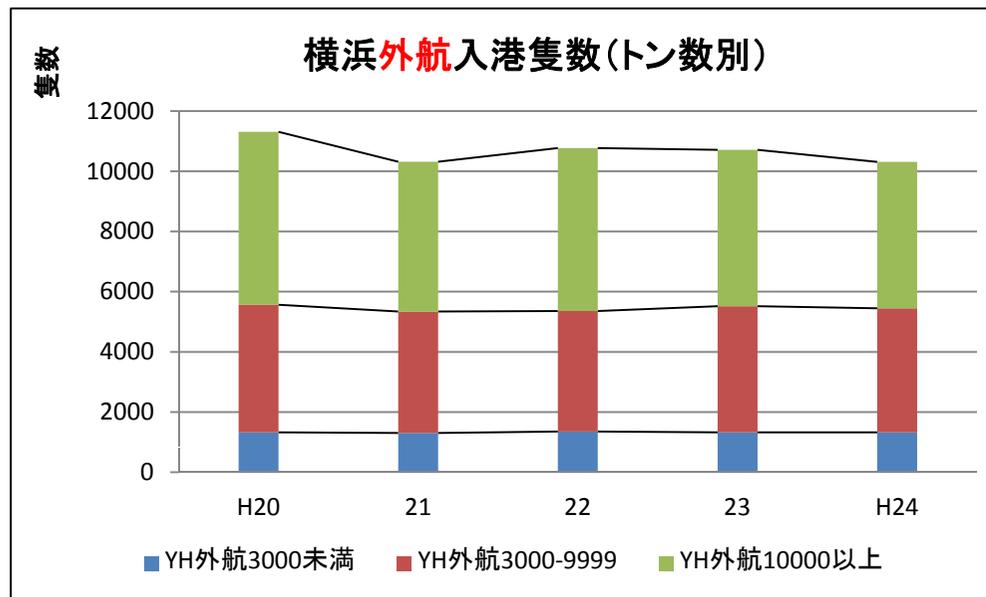
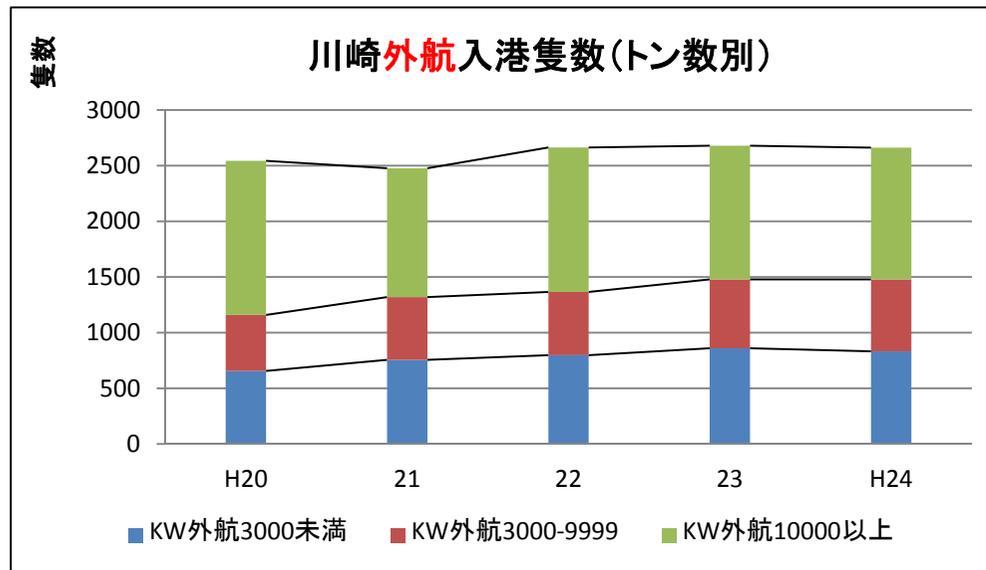
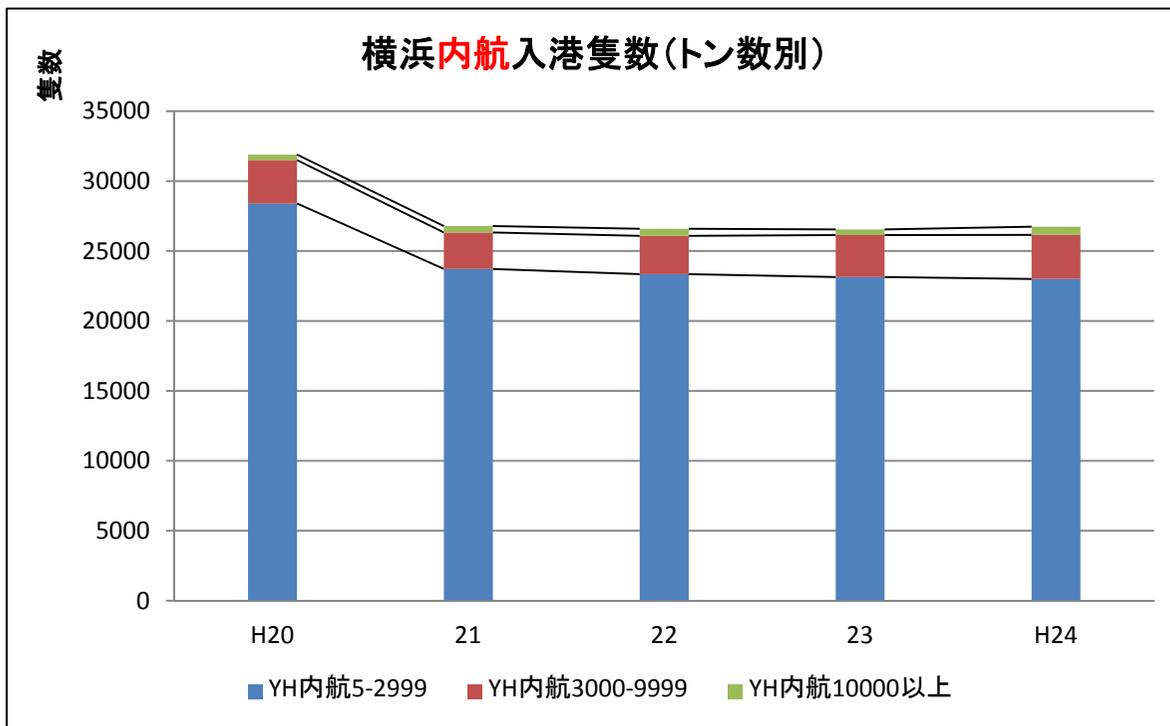
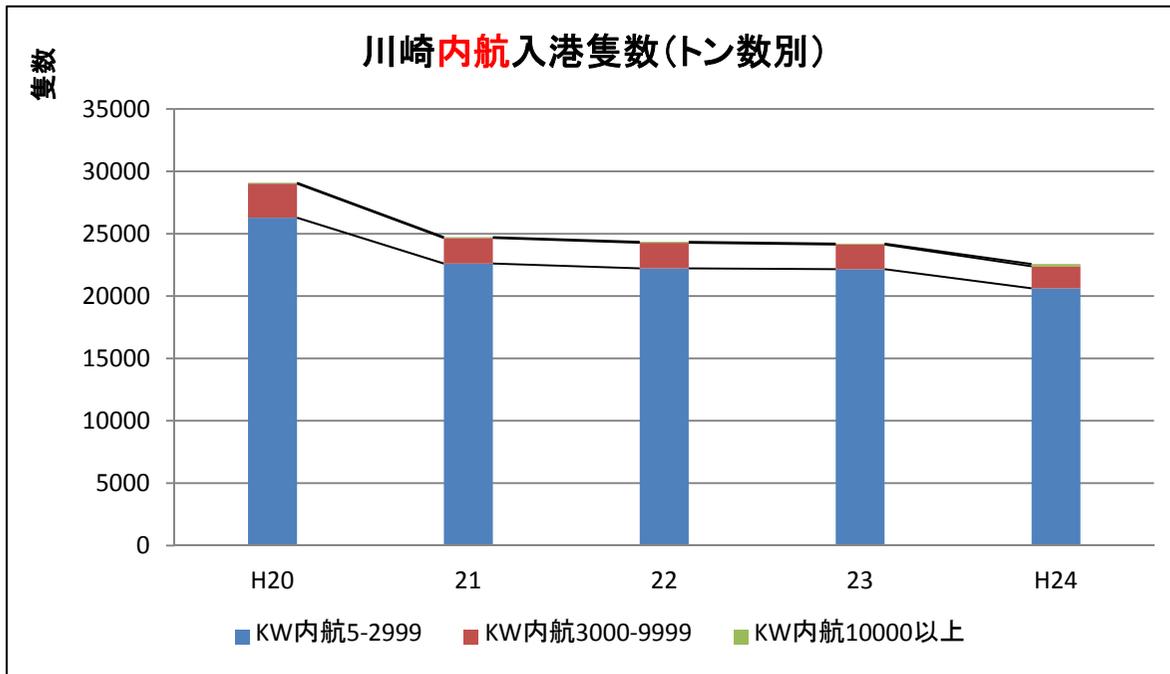


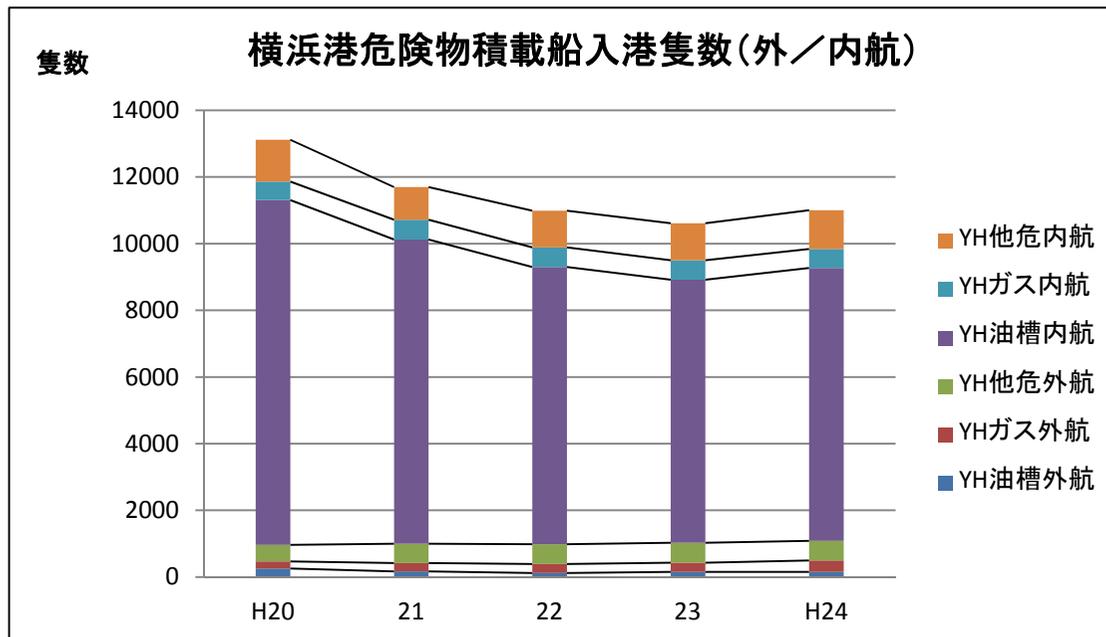
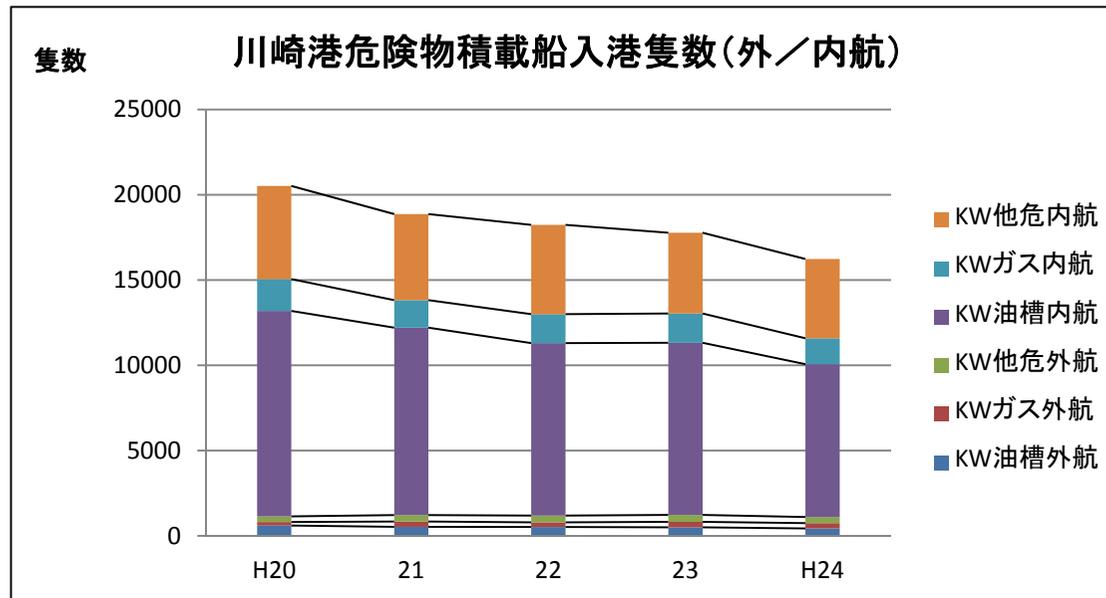
3. 横浜・川崎区への入港船の実態(過去5年間の推移)

(1) 入港船舶トン数別隻数の変化





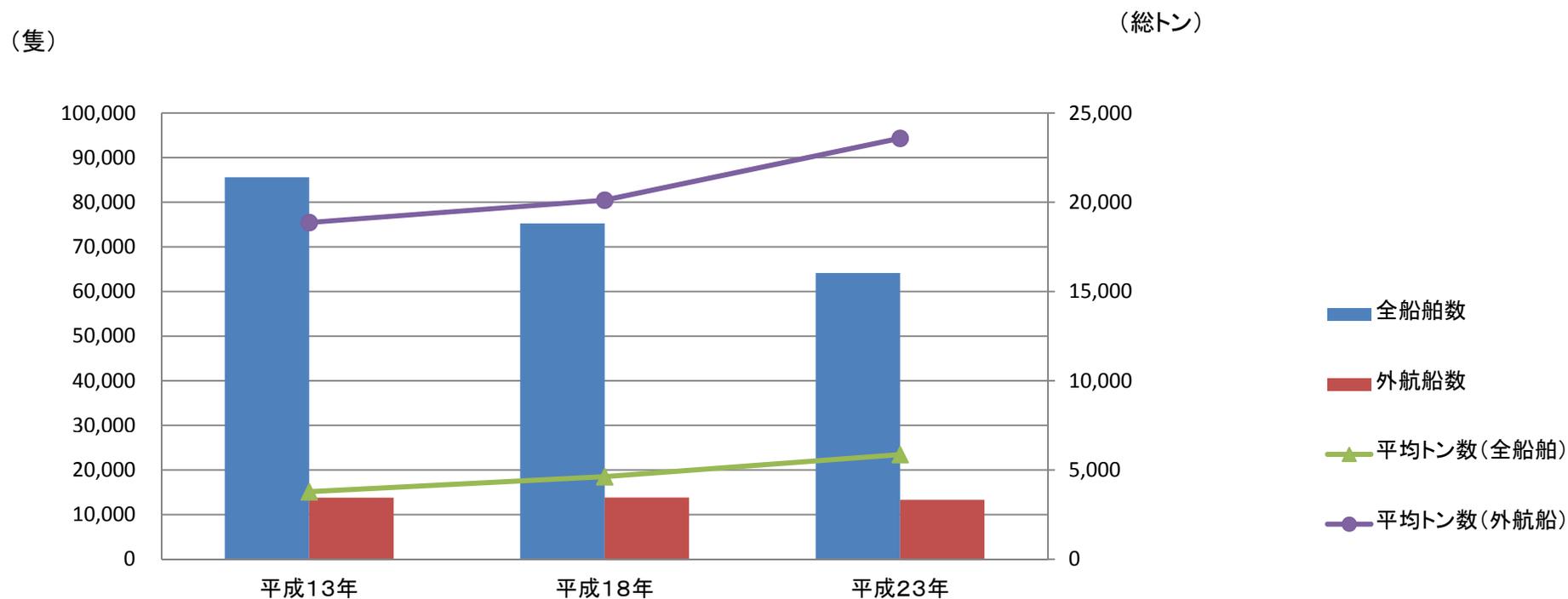
(2) 危険物積載船の入港隻数の変化



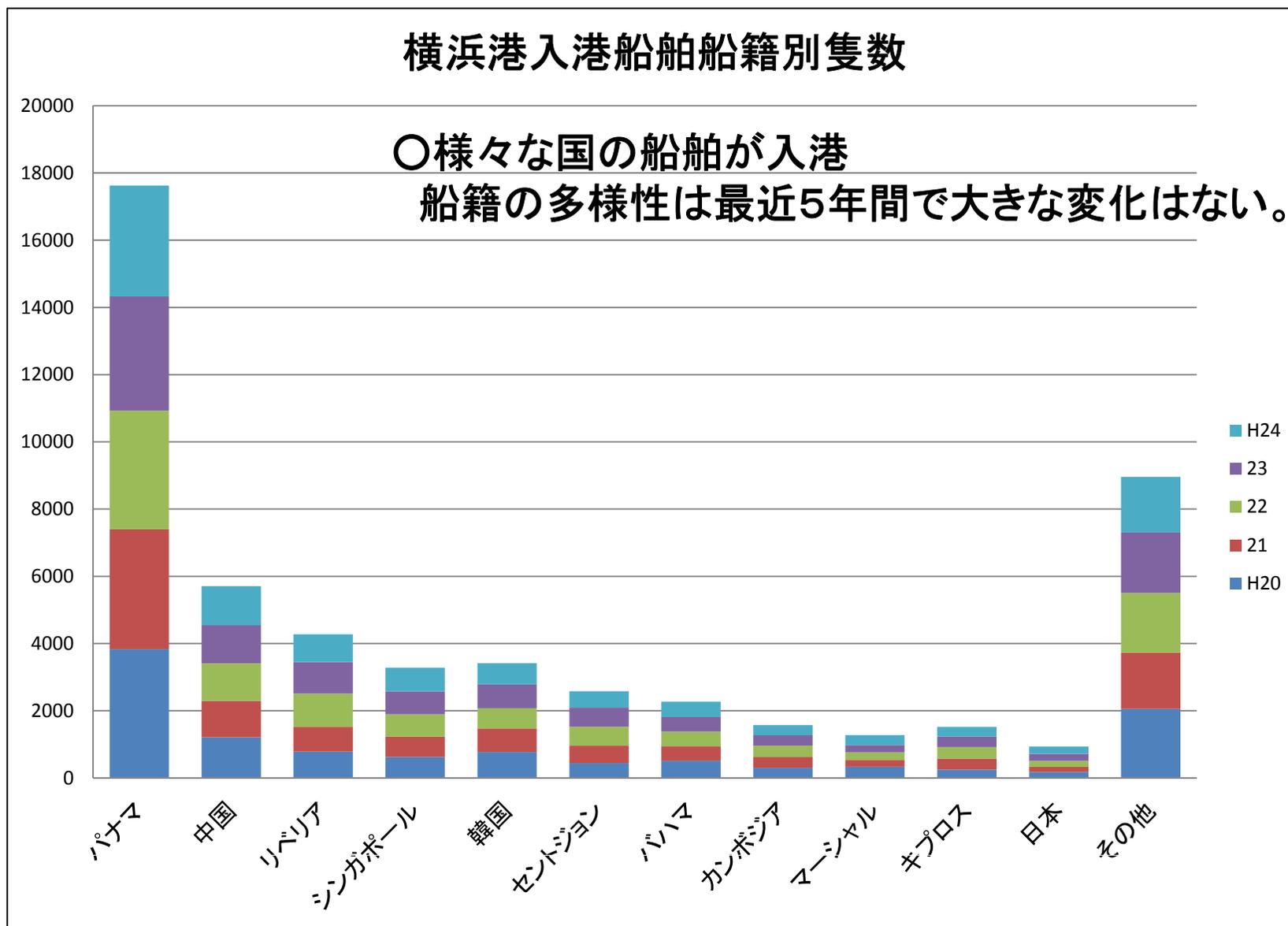
(3) 入港船の大型化

港湾統計年報から横浜・川崎港の入出港船舶の変化状況を見ると、隻数は、平成13年-23年比較で約25%（外航船では4%）減少しているが、個々の船舶の船型は、平均で55%（外航船では25%）大型化しており、航路内航行、離着棧作業への影響など、港内の安全確保への懸念要素である。

横浜・川崎港の入港隻数と船型の推移

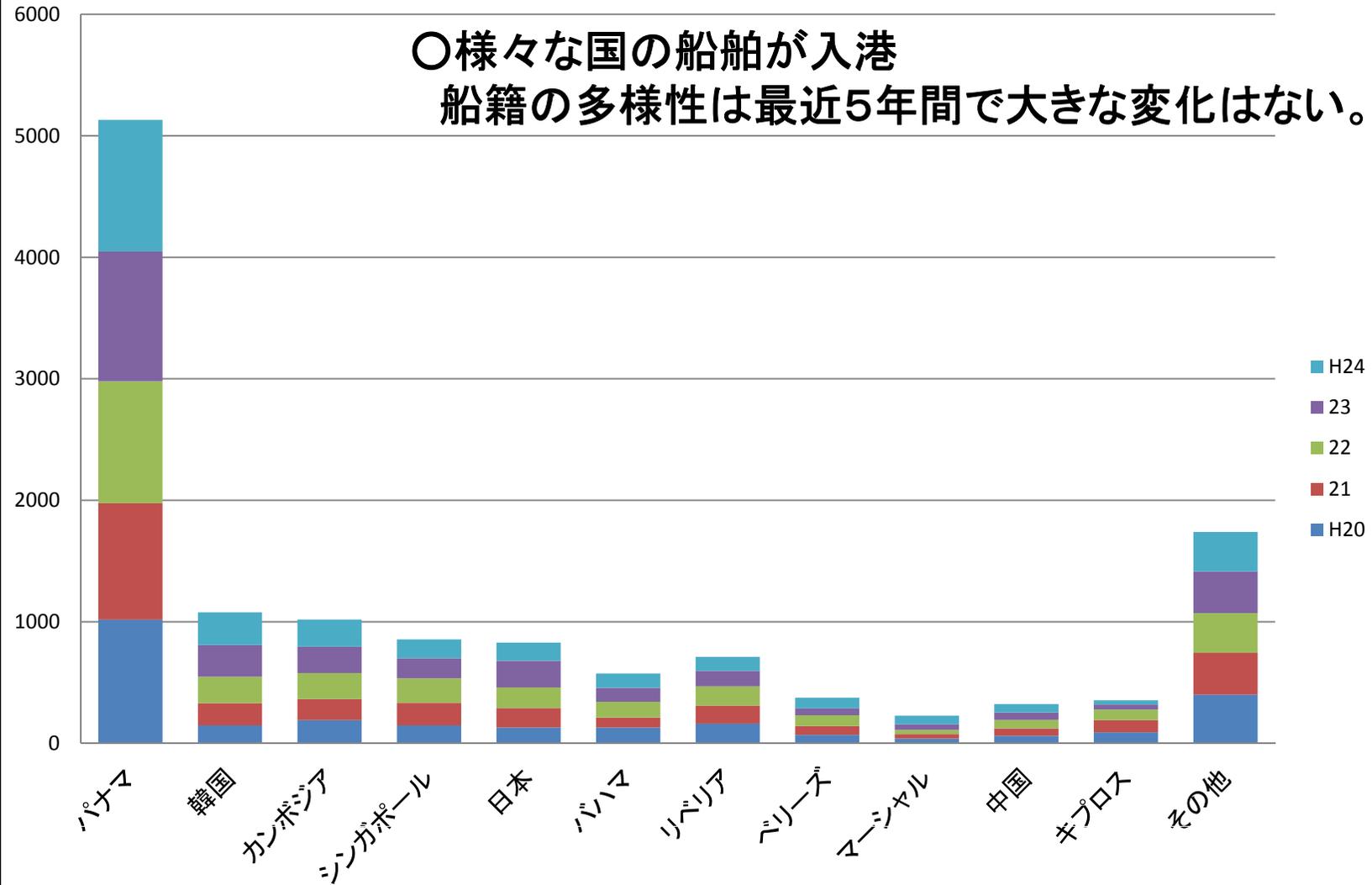


(4) 入港船の船籍の多様性



川崎港入港船舶船籍別隻数

○様々な国の船舶が入港
船籍の多様性は最近5年間で大きな変化はない。



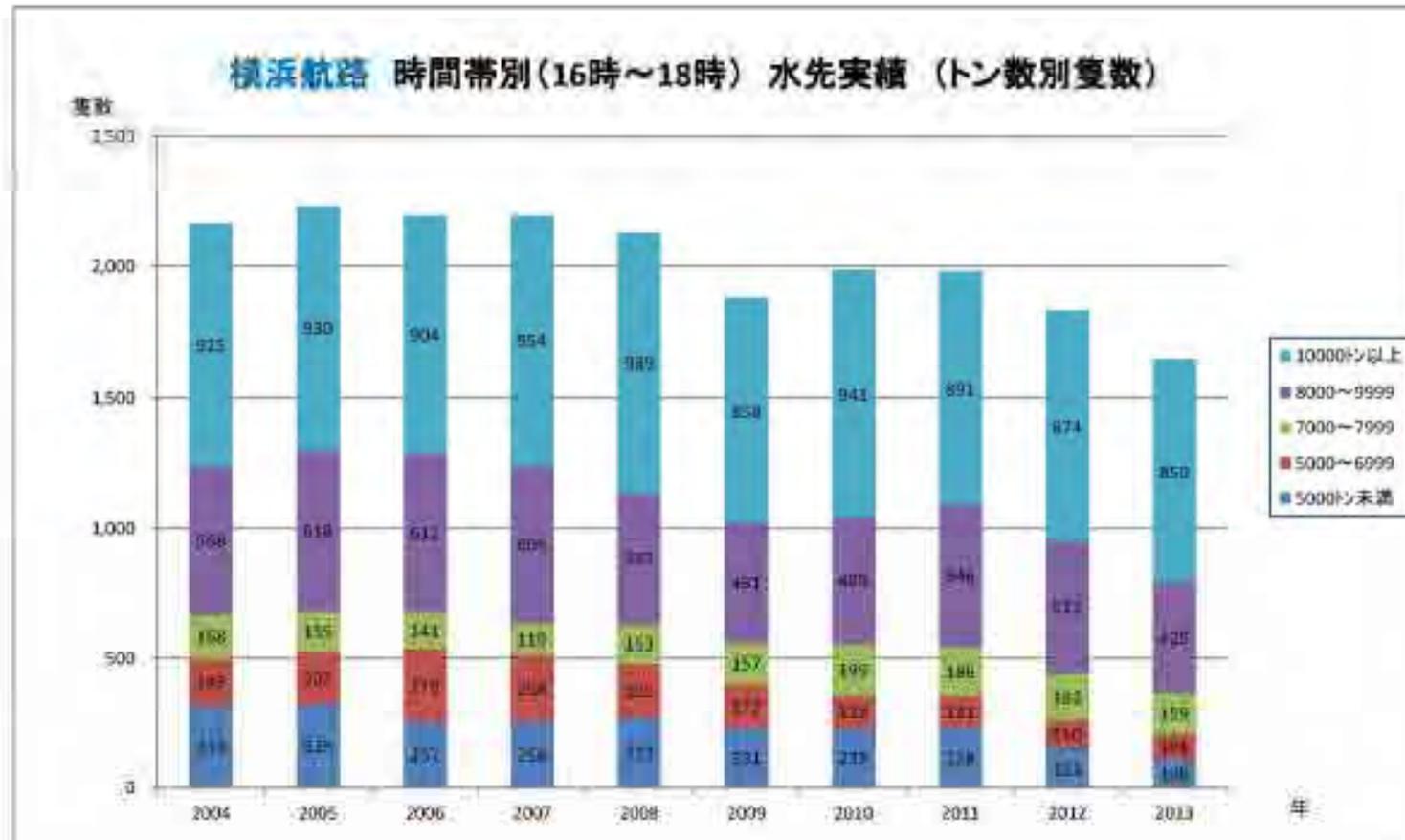
4. 横浜航路の通航実態

(1) 横浜航路の水先要請船の推移

朝方のラッシュ時(6時～8時)



夕方のラッシュ時(16～18時)



(2) 横浜航路07:30時 入港隻数(平成25年1月~12月)

月	本牧ABスリップ			本牧CDスリップ			その他			横浜航路全体			
	NP	1万未満	1万以上	NP	1万未満	1万以上	NP	1万未満	1万以上	NP	1万未満	1万以上	合計
1	0	31	5	11	25	31	45	8	11	56	64	47	167
2	2	24	11	14	22	25	32	9	11	48	55	47	150
3	0	31	14	11	27	30	37	15	15	48	73	59	180
4	0	30	17	8	24	24	32	12	13	40	66	54	160
5	1	26	14	10	31	17	32	13	13	43	70	44	157
6	2	24	13	7	20	17	29	11	13	38	55	43	136
7	2	30	13	10	21	18	42	9	8	54	60	39	153
8	0	30	18	8	19	30	33	10	5	41	59	53	153
9	0	32	11	8	25	24	24	12	7	32	69	42	143
10	1	26	15	6	21	26	30	9	6	37	56	47	140
11	0	28	11	8	28	27	33	9	6	41	65	44	150
12	0	26	13	12	28	25	55	7	11	67	61	49	177
合計	8	338	155	113	291	294	424	124	119	545	753	568	1,866
行先別	501隻 (26.9%)			698隻 (37.4%)			667隻 (35.7%)			1,866隻 (100.0%)			
1日平均										1.49隻	2.06隻	1.56隻	5.11隻
1日MAX	5隻			5隻			8隻			12隻			

*1 NP : ノーパイロット船

*2 1万未満 : 1万トン未満船

*3 1万以上 : 1万トン以上船

横浜航路 07:30 時台入港隻数に関する解説

(別表)は、平成 25 年 1 月～12 月の一年間に、横浜航路に朝 07:30 時台に入航した船舶の隻数を行先別、トン数別に集計したものである。

1. 横浜航路においては、全長 160m 以上の船舶(ほぼ、1 万 5 千トン以上の船舶に相当する)及び1千トン以上の油送船は、航路管制官による管制を受ける。これらの船舶を総称して管制船という。管制は、本牧信号所の掲げる管制信号で行われる。

この管制の対象となるのは、全長 50m 以上の船舶(ほぼ、500トン以上の船舶に相当する)で管制対象船と呼ばれ、管制時間帯においては、管制官の許可がない限り、航路内で管制船と行き会う(すれ違うこと)ことはできず、航路外待機となる。

2. 横浜航路の航路管制は、朝／夕の輻輳時間帯においては、毎正時を出港時間、正時と正時の中間を入港時間としている(航路管制は、本牧信号所の管制信号により行われる)。07:00～07:30 時は出港時間帯であり、07:30 時の入港船は防波堤の外で、出港船の進路を避けて航路入航を待っている。

07:30 時の入港船を担当する水先人は、遅くとも 07:10 時には乗船し、管制信号が「I」(IN)に変わるのを見計らって航路に入航する。出港船が何らかの事由により遅れると、入港船も必然的に遅れることになり、08:30 時の荷役作業開始に間に合わない結果となる。

3. 横浜航路に入航する船舶の行先は、本牧 AB/CD スリップ向けが全体の 64% 以上を占める。入港船は横浜航路の途中から 90 度左転し、速度を調整しながら幅 280m~300m の各スリップに進航する。

その他と表示した行先は、横浜航路の途中から右転して接近する大黒公共バスとベイブリッジよりも内奥方面のバスである。

4. 横浜航路全体を見ると、朝一番で入港する船に NP 船が占める割合は 29.2%、1 万トン未満船が 40.4%、1 万トン以上船が 30.4%を占める。

本牧 AB/CD スリップ入航船の約 10%は NP 船(ノーパイロット船)であり、1 万トン未満船はその 52%以上を占める。一方、その他方面入港船では、約 64%が NP 船である。

5. 07:30 時に横浜航路に入航する船の隻数は、1 日当たり 5.11 隻(内訳は NP 船 1.49 隻、1 万トン未満船 2.06 隻、1 万トン以上船 1.56 隻)であるが、土曜・日曜は港湾費用軽減のため入航する船が少なく、ウィークデイに集中する傾向があり、1 日当たりの MAX は 11~12 隻である。

仮に 07:30 時に 6 隻の入航船があるとすると、入港管制時間内には横浜航路に 5 分間隔(30 分/6 隻)で連続入港することになる。